

北稜高校造園科生徒達が肥後民家村の花壇を製作

1月10日(火)、肥後民家村のガラス工房前に北稜高校造園科生徒達が設計・施工した花壇が完成しました。製作には、生徒8人が昨年5月から取りかかり、デザイン、測量、施工、植栽など、作業に約30時間を費やしました。

花壇は、直径8m、高さ35cmで、和水町の町章がデザインされています。「水」の部分にはハボタンを植え、リュウノヒゲで文字を縁取っています。また、周囲の円には、シバザクラを植栽しています。

2年後には、円いっぱいシバザクラが広がり、毎年5月頃には、きれいな花を咲かせるそうです。

町は、平成21年度から北稜高校造園科に肥後民家村を課題実習の場として提供し、樹木の剪定、花壇の設計・施工を行っていただいています。



完成した町章をデザインした花壇の前に記念撮影

自動販売機に募金システム ～社会福祉協議会へ寄付～

1月16日(月)、エイティー九州株式会社(南関町下坂下)から和水町社会福祉協議会へ金一封の寄付がありました。

エイティー九州株式会社は、自動車部品などの鋳造から加工まで一貫生産を行っている企業です。社内に募金機能付き自動販売機を設置しており、そこで集まったお金を寄付していただいています。

黒田社長は「このシステムを活用した寄付も今年で4年目となりましたが、これからもできる限り寄付を続けていきたいです」と話をしてくださいました。



黒田好彦社長から寄付

第11回金栗四三杯なごみ子ども駅伝大会 箱根駅伝を目指そう！ なごみっ子！

12月11日(日)、全6区間 約6.8kmの総合グラウンド・町体育館周辺コースで、町陸上競技協会主催による「金栗四三杯なごみ子ども駅伝大会」が開催されました。

今回は、菊水地区で初めて開催し起伏のある周回コースでしたが、町内の小学校から14チームが元気に出場。小学4年生～6年生の98人(持久走の部を含む)が、保護者や地域の人たちの温かい声援を受けながら、友情のタスキをつなぎました。

主な成績は次のとおりです。



体育館前を一齐にスタート

【総合の部】

◎優勝 KIZUNA×絆(菊水中央小)
(選手：柴尾一樹、友田夢久、斉木さくら、一番ヶ瀬美空、大山優衣、高木大輔)

◎2位 グリーンファイターズ(緑小)
(選手：尾形輝音、北原大輝、淵上龍生、竹下大貴、鍋島駿斗、渡辺友朗)

◎3位 ヒガシーズ(菊水東小)
(選手：水上博貴、富田大貴、坂本爽馬、嶋田将人、木部 輝、嶋田永遠)

【区間賞】

●男子 1区 柴尾一樹(菊水中央)
2区 友田夢久(菊水中央)
3区 角利一郎(神尾)
4区 嶋田将人(菊水東)
5区 原賀健輝(神尾)

6区 渡辺友朗(緑)
●女子 1区 竹下歌南(緑)
2区 東 葉月(菊水中央)
3区 斉木さくら(菊水中央)
4区 一番ヶ瀬美空(菊水中央)
5区 大山優衣(菊水中央)
6区 松尾美貴子(緑)

【持久走の部】

○1位 甲斐村庄英(菊水東)

2位 友田希空(菊水中央)

3位 富田愛梨(菊水東)

第88回「箱根駅伝」 町長から柏原選手(東洋大学)へ 最優秀選手賞「金栗四三杯(銀杯)」を授与

正月の風物詩として定着している東京箱根間往復大学駅伝競走大会(通称箱根駅伝)は、町出身で、「日本マラソンの父」と称される金栗四三氏が創設された大会です。

和水町では、金栗氏の名前を箱根駅伝の歴史に刻むとともに、町のPRになればと考え、関東学連へ申しでを行い、第80回大会から最優秀選手賞が新設され「金栗四三杯(銀杯)」の贈呈を始めました。この「金栗四三杯」は、金栗氏が1911年ストックホルムオリンピック国内予選会で、当時の世界最高記録を塗り替えて優勝し受賞された時のトロフィーを複製したもので、箱根駅伝の閉会式において、毎年町長から最優秀選手へ授与されています。

今年開催された第88回大会では、東洋大学が圧倒的な強さで往路・復路・総合の完全優勝を果たしました。その中でも主将としてチームを引っ張り、山上りの5区で4年連続区間賞、加えて自身の持つ区間記録も更新しての区間新記録で総合優勝に貢献した、柏原竜二選手が最優秀選手(MVP)に選ばれ、閉会式において坂梨町長から「金栗四三杯」が授与されました。

なお、本町(東吉地)出身の久井原歩選手(国士舘大学)も8区を力走されました。



坂梨町長より「金栗四三杯」を授与された柏原選手



本町出身の久井原選手